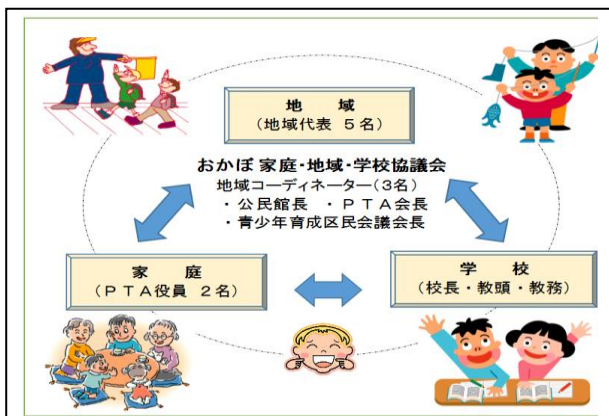


## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (3) 協議会における成果と課題

- ・公民館長や自治会連合会長など、地域でも中心となって活躍されておられる方に参加していただいているため、地域の現状や地域との連携等について、より具体的なご助言がいただけるため、教育活動に反映させやすい。
- ・来年度の行事を検討していく中で、地域の行事とのタイアップが提案された。児童数やPTA会員数が減少していく現状を考えると前向きに検討していく必要がある。
- ・子どもたちの主体的な活動の様子を見てもらうことで、これまでの学校行事を精選していくことについても、保護者や地域の方々の理解を得られるようにしていかなければならない。

### (2) 協議会の内容

- ①開催回数 3回実施
  - ②開催日と協議内容
- 第1回 6月18日
- ・本会の趣旨説明
  - ・学校経営方針の説明
  - ・地域連携に関する意見交換
  - ・「連音発表会」参観
- 第2回 11月18日
- ・教育活動の中間報告
  - ・「感謝のつどい」参加
- 第3回 2月26日
- ・学校評価の結果とその分析
  - ・次年度の課題と取組等
  - ・「6年生を送る会」参観

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

地域の自然に関わり田畑で作物を育てたり、地域の歴史を調べたりする体験活動を通して、児童が「ふるさと岡保」に深い愛着をもち、地域の自然の豊かさや伝統を守ろうとする心や態度を育てる。

### (2) 活動の実際

#### ①「わらんべ田(学校田)」での米作り(3~6年生)

学校田である「わらんべ田」は、本年度、41年目を迎えた。地域コーディネーターをはじめ、JA、PTA、ボランティアの方々のご協力のもと、3年生から6年生までの児童78名が5月に田植え、そして、9月に稲刈りを行い、たくさんのお米(あきさかり)を収穫することができた。



11月には、収穫したお米を利用して、お世話になった方々を招いての「感謝の集い&おにぎりランチ」集会を行った。6年児童が中心となって計画・準備を進め、当日は、それまでにお世話になった方々を多数お招きし、おにぎりを作って食べながら、楽しくそして美味しく自分たちが作ったお米を味わうことができた。また、数年前からマリ共和国の子どもたちへお米の支援を続けているが、本年度は、集会の前に校内で支援米の発送式を実施することができた。

## ②「あいじょう畑（学校畑）」での野菜作り（1～6年生）

「あいじょう畑」では、地域コーディネーターやボランティアの方のご指導のもと、春には、さやいんげん（5年）とじゃがいも（6年）、秋には、白菜（5年）と大根（6年）を育てた。畝作りに始まり、種まき（苗植え）や除草、水やり等の作業にも取り組み、愛情を持って植物を育てることを体験することができた。収穫後には、大きく育った野菜をうれしそうに家に持って帰る姿が見られた。また、家庭科等の授業で調理実習の食材としても活用することができた。

「あいじょう畑」では、1～4年生も、生活科や理科等の授業と関連させて、様々な作物を育てている。1・2年生は、収穫したさつまいもを利用し、園小連携の一環として近くのこども園の園児を招いて、「おいも集会」を行った。

さらに、昨年度から、JA女性部のご指導で、収穫後の空いた畑を利用して「岡保地区の伝統野菜 菜おけ」の栽培を始めた。これまでは、1年生が地域の畑に行って種まきや収穫の体験をさせていただいていたが、学校の畑を使うことで、育っていく様子も観察することができるようになった。



## （3）地域コーディネーターの活動概要

- ・活動①で、田植えや稲刈りの準備や協力者への連絡調整、準備・後始末等
- ・活動②で、野菜作りのボランティアの方との連絡調整、作業の手伝い等

## （4）特に工夫した事項

- ・活動①では、これまでも経験を積んでいる高学年が、3・4年生にやり方を教えられるように縦割りの活動として田植えや稲刈りを行った。また、関係団体に働きかけ、昨年度までは校外で6年生だけが参加していた支援米の発送式を校内で実施していただいた。学校で行うことで、米作りに携わった子どもたちが全員参加でき、自分たちのお米が役立てられていることを実感することができた。
- ・活動②では、JA女性部の方にゲストティーチャーとして来ていただき、3年生の総合で「菜おけ博士になろう」というテーマで菜おけについて調べたり、6年生の家庭科で「菜おけご飯と収穫野菜のみそ汁」を調理したりする学習を取り入れることで、岡保の菜おけをより身近なものとして関心を持たせることができるように工夫した。

## （5）成果と課題

- 「わらんべ田」での稲作や「あいじょう畑」での野菜栽培は、岡保地区の豊かな自然の恵みを感じることでできる重要な体験活動である。収穫するだけでなく、できたお米や野菜を活用することで、より一層収穫までの苦労と収穫物のおいしさを感じさせることができた。
- 児童数やPTA会員数が年々減少していく中で、活動の継続が難しくなってくるものもあると思われるが、今後も引き続き、地域の方と関わる機会を多くもち、ふるさと岡保を愛する子どもの育成をめざした取組を工夫していきたい。